漆原の化け石

今から四百年も前のこと、毎夜丑満頃になると、獨眼（ひとつまなこ）の大入道が今の漆原附近に出現して往來の人を捉へてその獨眼を光らしてにらみ殺さんばかりに、太い錫杖を振つておどしつけ、時には家の中に闖入するなど人々を戰慄せしめるのであつた。そこで託宣を下ろして聰いたら漆原北端にある墓地の「ならのき石」が化けて出ると告げられ、人々皆おどろいてその石を祀つた。けれども夜になれば相變らず出て大いになやまされた。

漆原八幡神社の別當で慈明院法師といふ劍術の達者な修驗者があつた。この法師はこの怪物の出る噂をきいて一笑に附してゐたが或る夜遲く祈禱の歸へりその化け石の在る邊りに來かゝつた時、不意に法師の前に獨眼の大入道が突立つて、それはそれは凄い形相で一潰しにつかみかゝつて來た。豪勇な法師も一寸怯んだが、抜く手も見せず一刀の下に斬りつけんとした。ところが怪物は恰も煙のやうなもので、

右を拂へば左に現はれ、前を拂へば後に現はれて、どうにも手應へがなくあせる法師は秘術を盡して阿修羅の如く奮戰し最後に袈裟がけの一刀をあびせた。そしたら刀が石にでもあたつた如くガチリと音がしたので不思議でたまらなかつた。そこで怪物大入道はそれつきり影も見せずゐなくなつたので、法師は大刀を鞘におさめ悠々家に歸つて素知らぬふりをしてゐたが、内心密かに心配であつたから翌日怪物を斬つた處に行つて見たら、その斬倒したと思つた怪物大入道は石と化し袈裟がけの刀痕あざやかに遺されてあつたと、そしてそれ以來その怪物は出現せず人々皆慈明院法師の武勇をほめたゝへたと云ふ。現今も其の化け石と傳へらるゝものが漆原部落の北端に祀られてある。